

岡山県感染症週報 2015 年 第 51 週 (12 月 14 日～12 月 20 日)

【お知らせ】 次週、2015 年第 52 週(12/21～12/27)の感染症週報は、2016 年 1 月 7 日(木)13:00 にホームページへ掲載いたします。

◆2015 年 第 51 週 (12/14～12/20) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 49 週 5 類感染症 梅毒 1 名 (20 代 男)
 第 50 週 2 類感染症 結核 2 名 (60 代 女 1 名、70 代 男 1 名)
 4 類感染症 A 型肝炎 1 名 (20 代 女)
 レジオネラ症 1 名 (40 代 男)
 第 51 週 2 類感染症 結核 2 名 (70 代 男 1 名、90 代 男 1 名)
 4 類感染症 A 型肝炎 1 名 (70 代 女)
 5 類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名 (70 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- RS ウイルス感染症は、県全体で 103 名 (定点あたり 1.48 → 1.91 人) の報告があり、前週より増加しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 101 名 (定点あたり 1.44 → 1.87 人) の報告があり、前週より増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 692 名 (定点あたり 11.43 → 12.81 人) の報告があり、前週より増加しました。備北地域では、「発生レベル 3」となっています。
- 流行性耳下腺炎は、県全体で 70 名 (定点あたり 1.20 → 1.30 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- インフルエンザは、県全体で 44 名 (定点あたり 0.55 → 0.52 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第 52 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました。(12 月 21～22 日)
- 感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が 2 施設でありました。(12 月 21～22 日)

1. [RS ウイルス感染症](#)は、県全体で 103 名 (定点あたり 1.48 → 1.91 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して多い状態です。地域別では、倉敷市 (3.27 人)、美作地域 (3.17 人)、岡山市 (2.36 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき今後の県内の発生状況に注意するとともに、重症化するおそれのある乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めてください。
2. [A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で 101 名 (定点あたり 1.44 → 1.87 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、真庭地域 (4.50 人)、倉敷市 (4.00 人)、岡山市 (2.21 人) の順で、定点あたり報告数が多くなっています。例年、冬季に患者が多く報告されますので、今後の県内の発生状況に注意し、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
3. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 692 名 (定点あたり 11.43 → 12.81 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、倉敷市 (19.45 人)、備北地域 (18.00 人)、美作地域 (12.83 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域では、先週にひきつづき「発生レベル 3」となっています。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016 年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
4. [流行性耳下腺炎 \(おたふくかぜ\)](#)は、県全体で 70 名 (定点あたり 1.20 → 1.30 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、真庭地域 (3.50 人)、美作地域 (2.67 人)、岡山市 (2.14 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、真庭地域では「発生レベル 2」ととなりました。この感染症の治療は、対症療法が中心となります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。
5. [インフルエンザ](#)は、県全体で 44 名 (定点あたり 0.55 → 0.52 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★
感染性胃腸炎		★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★★★★★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★★★★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		★★★
マイコプラズマ肺炎		★★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2 倍以上の減少  : 1.1～2 倍未満の減少  : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加  : 2 倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

〇年末年始に海外へ旅行される方へ

海外には、通常日本国内に存在しない感染症があります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。渡航先では感染に気をつけ、帰国時に体調不良があれば空港の検疫所に相談しましょう。また、帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は渡航先も伝えましょう。

なお、エボラ出血熱の流行国や中東呼吸器症候群(MERS)の発生国である中東地域に渡航される方は、下記の厚生労働省ホームページ内「渡航中及び帰国後に体調が悪くなったら」をご覧ください。

[年末年始における海外での感染症予防について\(厚生労働省ホームページ\)](#)

[海外で健康に過ごすために\(厚生労働省検疫所ホームページ\)](#)

◆感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行しています。

- * 外出後はうがいをしましょう。
- * 外出後や排便後、調理・食事の前にはしっかり手を洗いましょう。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 咳やくしゃみなどの症状があるときは、咳エチケットを心がけ、周囲の人にうつさないよう気をつけましょう。

インフルエンザ週報 2015 年 第 51 週 (12 月 14 日 ~ 12 月 20 日)

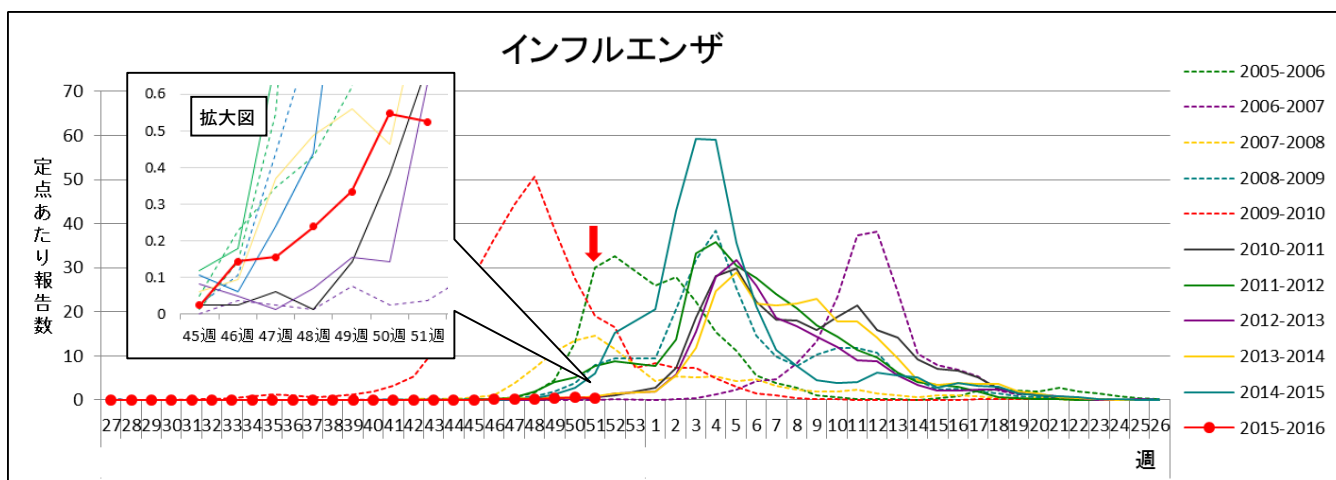
【お知らせ】次週、2015 年第 52 週(12/21~12/27)のインフルエンザ週報は、2016 年 1 月 7 日(木)13:00 にホームページへ掲載いたします。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 44 名の報告がありました(84 定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第 52 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました。(12 月 21~22 日)



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体では 44 名(定点あたり 0.55 → 0.52 人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、真庭以外のすべての地域で患者が報告されており、特に備中地域(1.42 人)、備北地域(1.00 人)で、インフルエンザの流行開始の目安となる「定点あたり 1.0 人」に達しています。

第 50 週全国集計によると、全国の定点あたり報告数は 0.34 人であり、前週(0.21 人)よりわずかに増加しました。都道府県別では、秋田県(2.39 人)、沖縄県(1.28 人)、北海道(1.10 人)の順で、定点あたり報告数が多くなっています。

この時期、ほとんどの学校は冬休みに入るため、学校での感染の機会は減りますが、『外出後や食事前の手洗いを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠を取る。』など、感染予防に努めてください。また予防接種を予定している方は、早めに済ませましょう。

[平成 27 年第 50 週 インフルエンザの発生状況について\(厚生労働省\)](#)
[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が出現するまで、2 週間程度かかります。
本格的な流行がはじまる前に予防接種を済ませることをお勧めします。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。

定期予防接種対象者

- * 65 歳以上の方
- * 60~64 歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

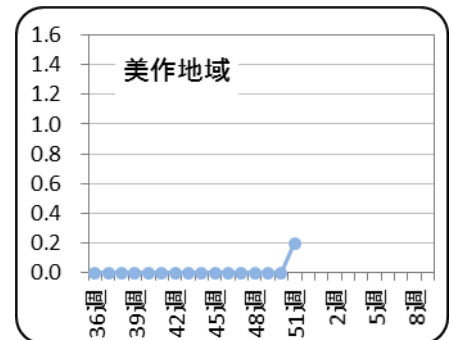
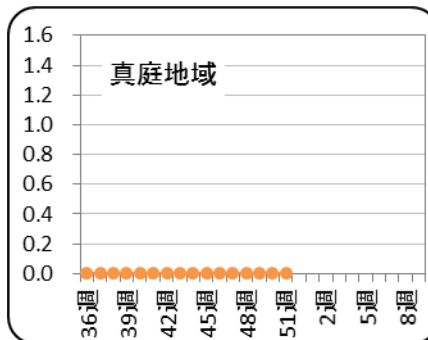
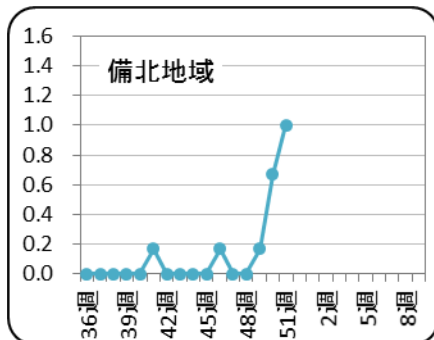
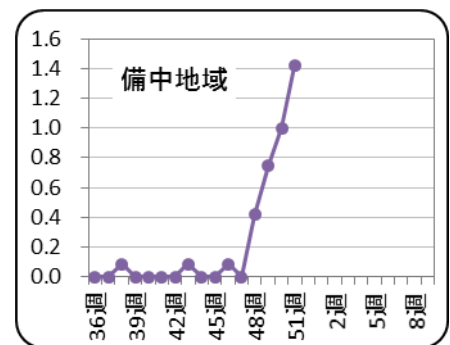
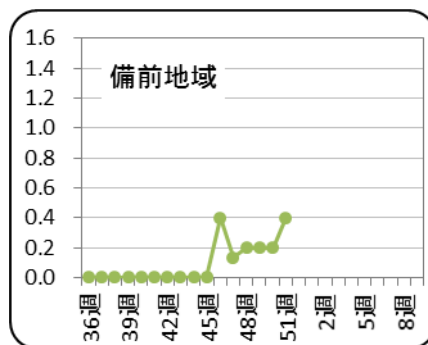
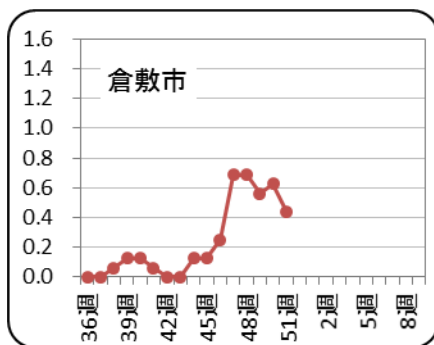
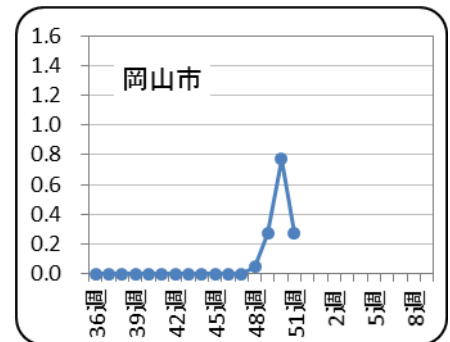
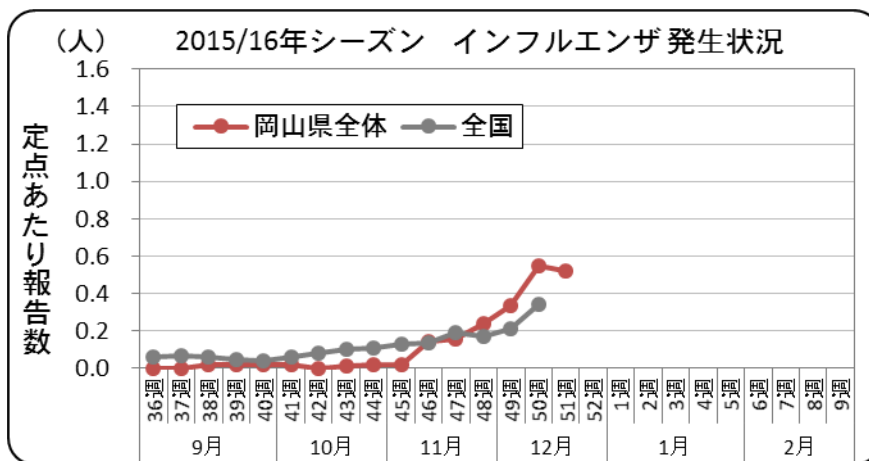
◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

1.地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

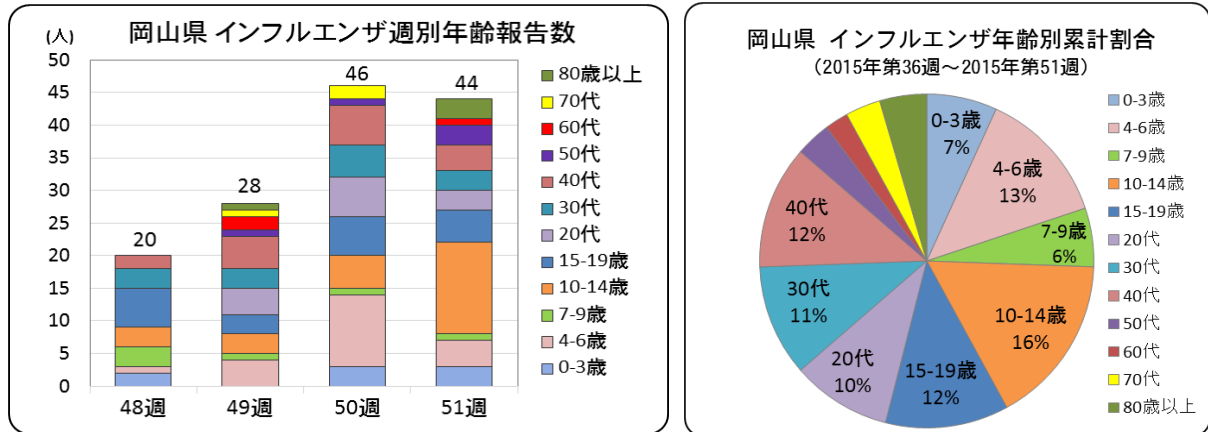
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	44	➡	備 中	患者数	17	➡
	定点あたり	0.52			定点あたり	1.42	
岡山市	患者数	6	⬇	備 北	患者数	6	➡
	定点あたり	0.27			定点あたり	1.00	
倉敷市	患者数	7	➡	真 庭	患者数	—	➡
	定点あたり	0.44			定点あたり	—	
備 前	患者数	6	➡	美 作	患者数	2	⬆
	定点あたり	0.40			定点あたり	0.20	

【記号の説明】 前週からの推移
 ⬇ : 2 倍以上の減少 ⬇ : 1.1～2 倍未満の減少 ➡ : 1.1 未満の増減
 ➡ : 1.1～2 倍未満の増加 ⬆ : 2 倍以上の増加



2. 年齢別発生状況

今シーズン（2015年8月31日～）の年齢別累計割合は、10-14歳 16%、4-6歳 13%、15-19歳・40歳代 各 12% の順で高くなっています。

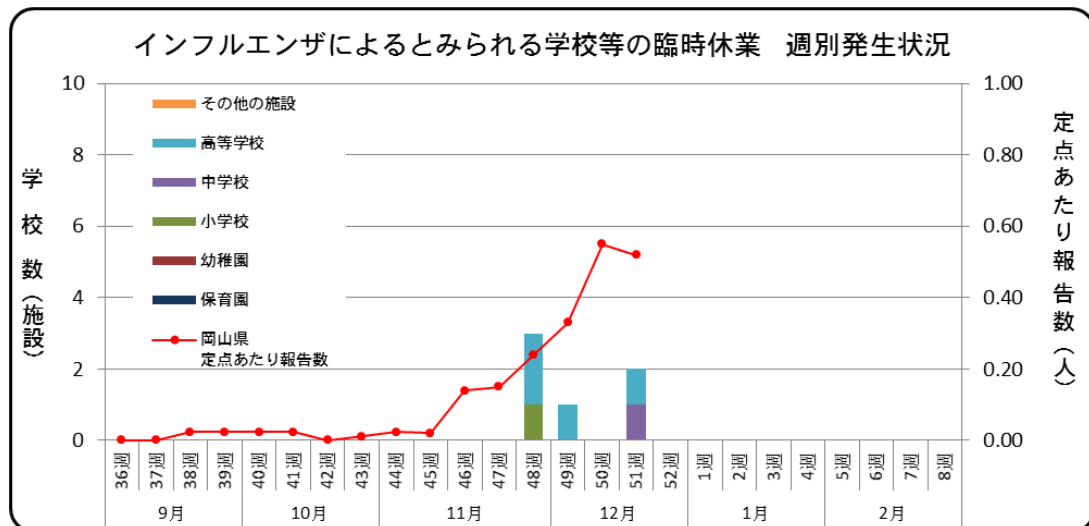


3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました。

【第 51 週 臨時休業施設数】

▽倉敷市 1 ▽総社市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	21	63	17	49	2	6	—	—	—	—	2	6	H27.11.24
岡山市	0	9	0	6	0	1	—	—	—	—	0	1	H27.11.24
倉敷市	11	11	9	9	1	1	—	—	—	—	1	1	H27.12.15
備前地域	0	9	0	7	0	1	—	—	—	—	0	1	H27.11.24
備中地域	10	34	8	27	1	3	—	—	—	—	1	3	H27.11.24
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第 51 週：2 施設 累計：6 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	0	1	1	1	1	4	—	—

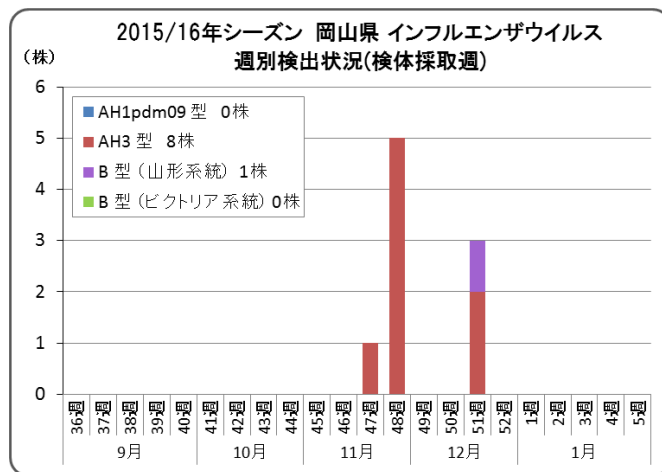
4. インフルエンザウイルス検出状況

第51週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH3型が2株、B型（山形系統）が1株でした。

今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が8株（89%）、B型（山形系統）が1株（11%）となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型80株、AH1pdm09型53株、B型42株となっています。（2015年12月18日現在）

[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)

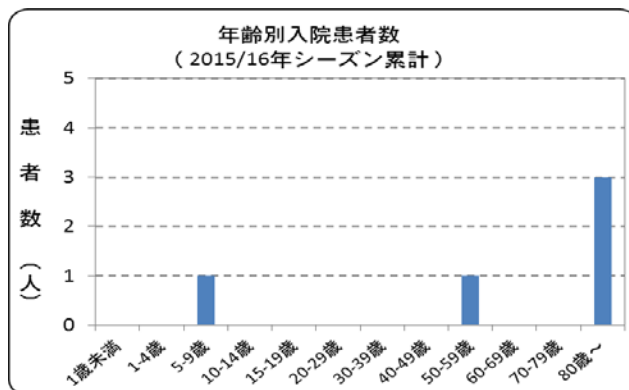
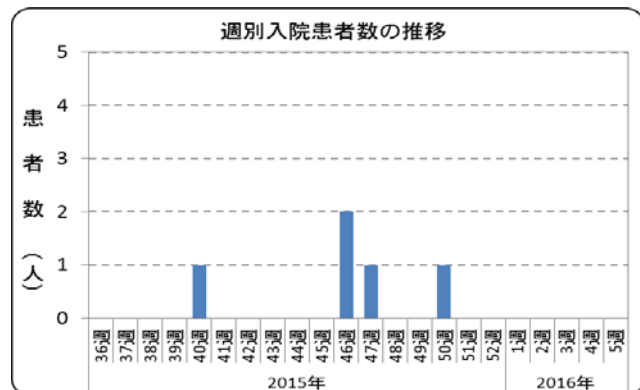


ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH3亜型	2015年第51週(12/14～12/20)	2015/12/14	備中	中学生	女	集団発生
インフルエンザウイルスAH3亜型	2015年第51週(12/14～12/20)	2015/12/14	備中	中学生	男	集団発生
インフルエンザウイルスB型	2015年第51週(12/14～12/20)	2015/12/14	備前	40代	女	山形系統

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【2015年8月31日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数			1						1			3	5
ICU入室			1						1				2
人工呼吸器の利用			1										1
頭部CT検査(予定含)													
頭部MRI検査(予定含)													
脳波検査(予定含)			1										1
いずれにも該当せず												3	3

* 重複あり

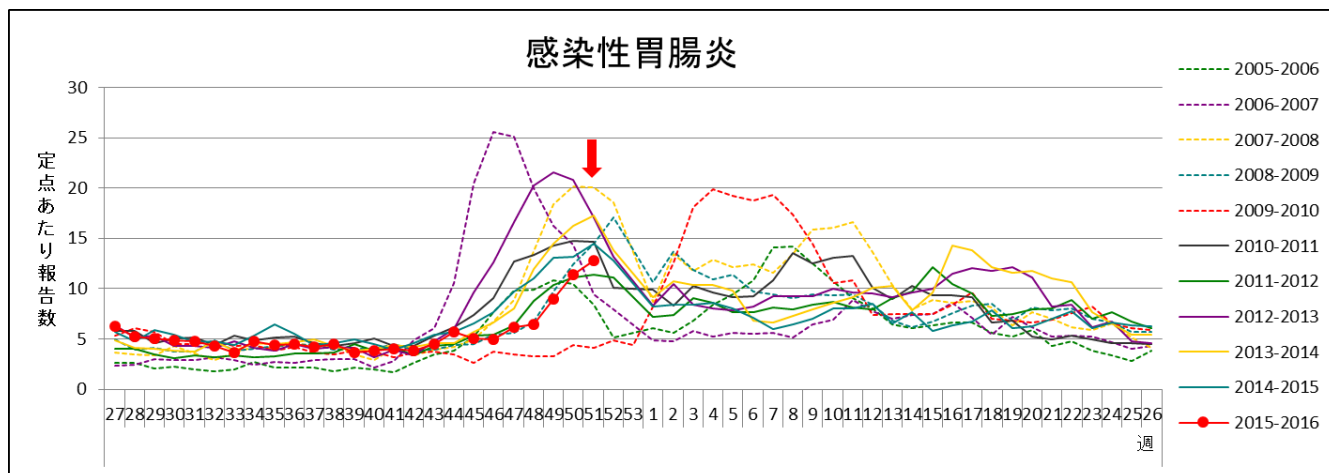
感染性胃腸炎週報 2015 年 第 51 週 (12 月 14 日 ~ 12 月 20 日)

【お知らせ】次週、2015 年第 52 週(12/21~12/27)の感染性胃腸炎週報は、2016 年 1 月 7 日(木)13:00 にホームページへ掲載いたします。

○感染性胃腸炎は、県全体で 692 名（定点あたり 11.43 → 12.81 人）の報告がありました（54 定点医療機関報告）。

【第 52 週 速報】

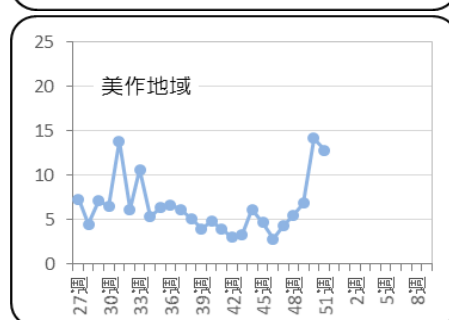
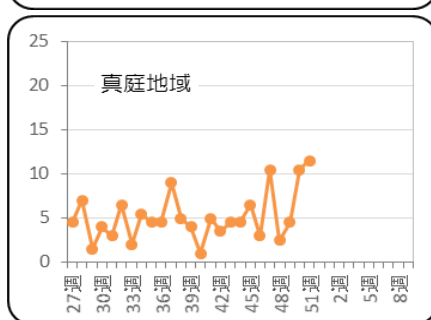
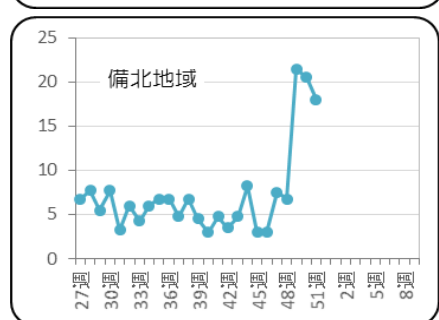
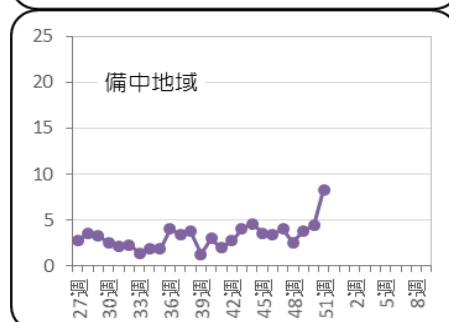
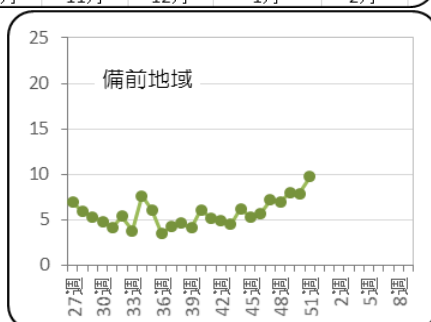
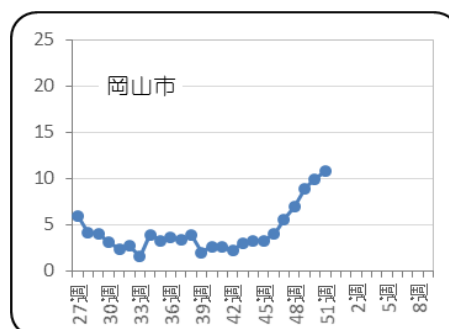
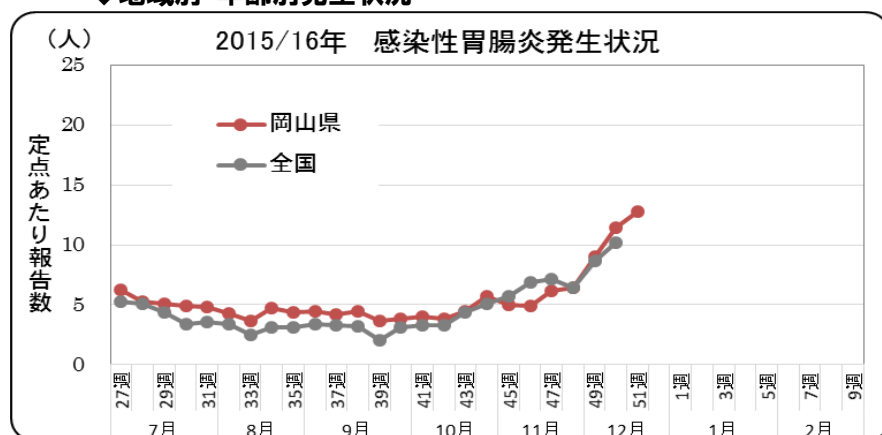
○感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が 2 施設でありました。（12 月 21~22 日）



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

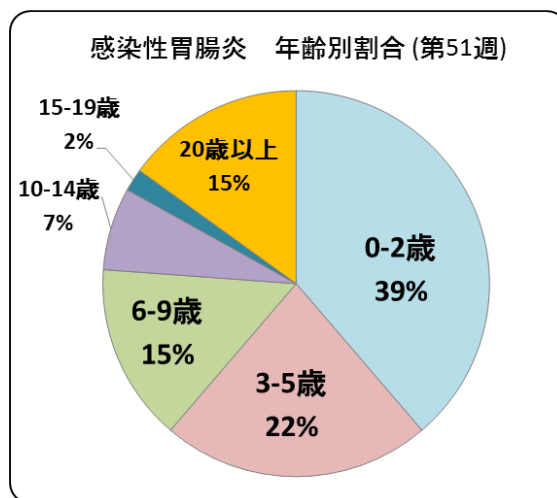
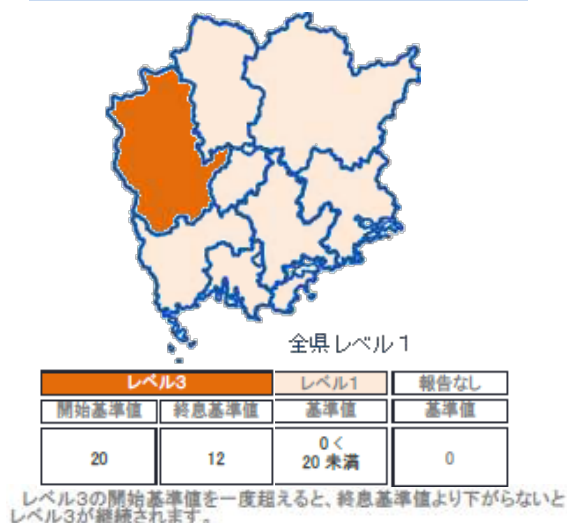
感染性胃腸炎は、県全体で 692 名（定点あたり 11.43 → 12.81 人）の報告があり、前週より増加しました。第 46 週以降、定点あたり報告数の増加が続いており、第 52 週には、総社市の小学校及び高梁市の幼稚園で感染性胃腸炎による臨時休業も報告されています。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、倉敷市（19.45 人）、備北地域（18.00 人）、美作地域（12.83 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域では、前週にひきつづき「発生レベル 3」となっています。年齢別割合では、0-2 歳が 39%と最も高く、次いで 3-5 歳 22%、6-9 歳 15%の順となっています。

感染性胃腸炎感染症マップ 2015年 51週



ウイルスを原因とする感染性胃腸炎の治療は、特別な薬がないため、対症療法が中心です。通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。アルコールは、ノロウイルスに対して消毒効果が低いとされています。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を 85～90℃で 90 秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

保健所別報告患者数（定点把握） 2015年 51週 （ 2015/12/14～2015/12/20 ）

2015年12月24日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	44	0.52	6	0.27	7	0.44	6	0.40	17	1.42	6	1.00	—	—	2	0.20
RSウイルス感染症	103	1.91	33	2.36	36	3.27	5	0.50	9	1.29	1	0.25	—	—	19	3.17
咽頭結膜熱	8	0.15	4	0.29	—	—	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	101	1.87	31	2.21	44	4.00	3	0.30	10	1.43	2	0.50	9	4.50	2	0.33
感染性胃腸炎	692	12.81	151	10.79	214	19.45	97	9.70	58	8.29	72	18.00	23	11.50	77	12.83
水痘	35	0.65	16	1.14	10	0.91	—	—	8	1.14	—	—	1	0.50	—	—
手足口病	3	0.06	1	0.07	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	28	0.52	16	1.14	6	0.55	2	0.20	—	—	—	—	—	—	4	0.67
突発性発疹	20	0.37	11	0.79	6	0.55	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.25	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	70	1.30	30	2.14	7	0.64	3	0.30	1	0.14	6	1.50	7	3.50	16	2.67
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	7	1.40	—	—	7	7.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	7	1.40	—	—	7	7.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（－： 0 or 0.00） （空白： 定点なし）

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 51週

（ 2015/12/14～2015/12/20 ）

2015年12月24日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	44	0.52	6	0.27	7	0.44	6	0.40	17	1.42	6	1.00	—	—	2	0.20
咽頭結膜熱	8	0.15	4	0.29	—	—	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	101	1.87	31	2.21	44	4.00	3	0.30	10	1.43	2	0.50	9	4.50	2	0.33
感染性胃腸炎	692	12.81	151	10.79	214	19.45	97	9.70	58	8.29	72	18.00	23	11.50	77	12.83
水痘	35	0.65	16	1.14	10	0.91	—	—	8	1.14	—	—	1	0.50	—	—
手足口病	3	0.06	1	0.07	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	28	0.52	16	1.14	6	0.55	2	0.20	—	—	—	—	—	—	4	0.67
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.25	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	70	1.30	30	2.14	7	0.64	3	0.30	1	0.14	6	1.50	7	3.50	16	2.67
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第51週 2015/12/14～2015/12/20)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	44	-	-	1	1	1	-	2	2	-	1	-	14	5	3	3	4	3	1	-	3

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	103	25	23	37	12	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	-	1	2	2	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	101	-	-	3	4	12	15	11	11	14	8	7	12	2	2
感染性胃腸炎	692	7	42	104	115	53	63	40	35	26	28	14	48	13	104
水痘	35	-	2	3	4	9	6	5	5	-	-	1	-	-	-
手足口病	3	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	28	-	-	2	2	5	6	3	3	5	1	-	1	-	-
突発性発疹	20	-	11	6	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
百日咳	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	70	-	-	1	7	5	8	8	9	7	6	2	10	2	5

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

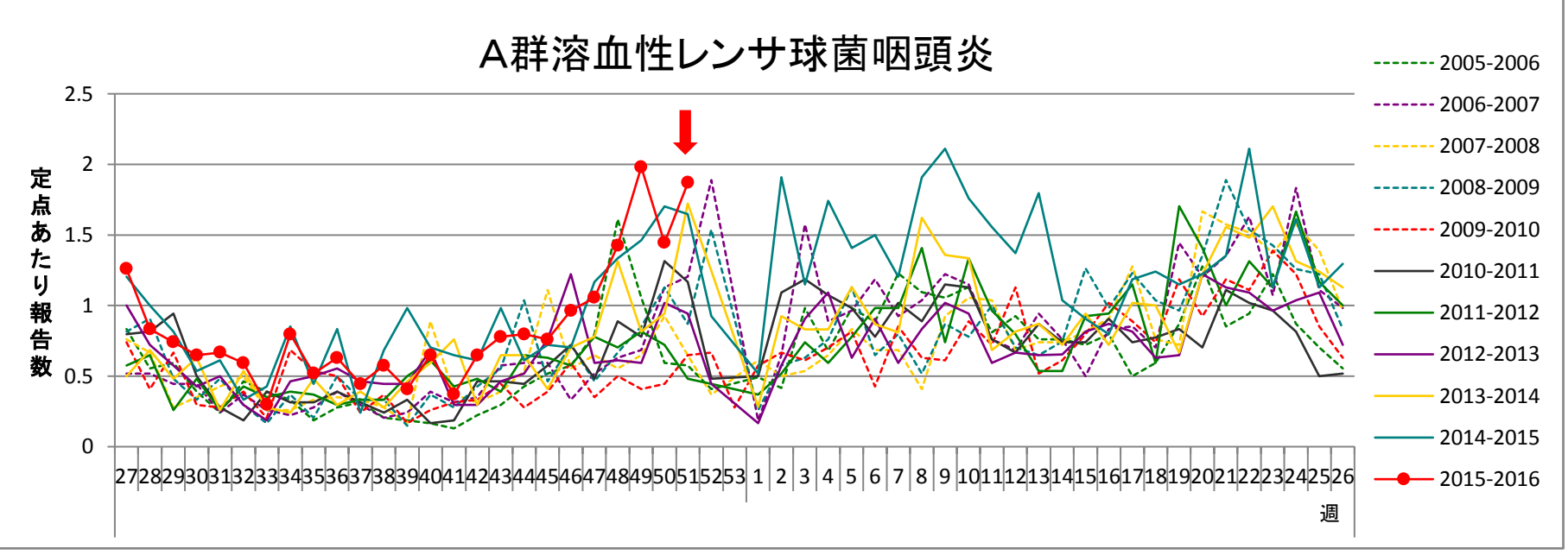
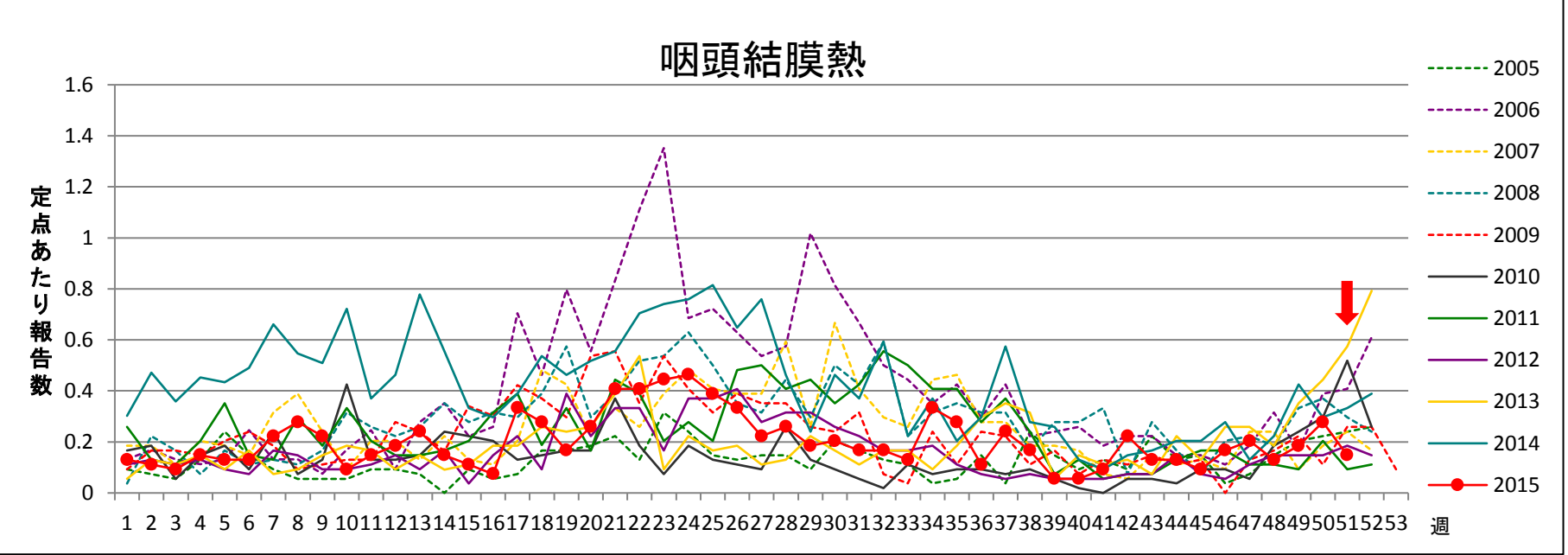
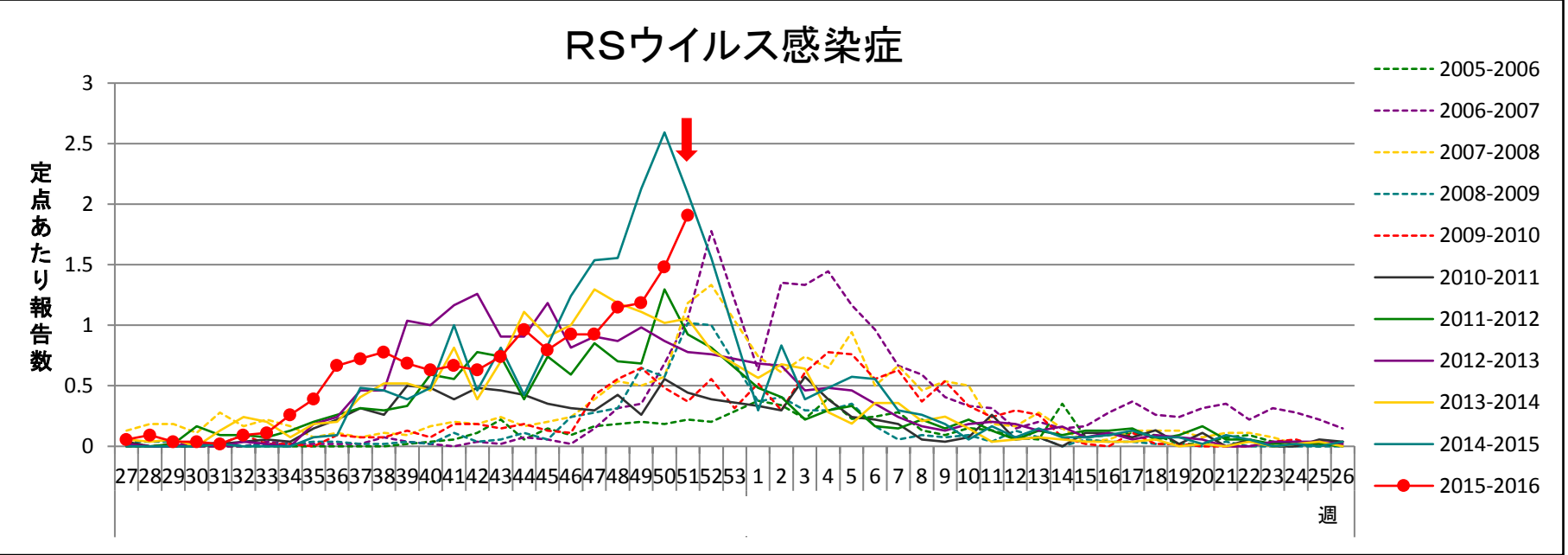
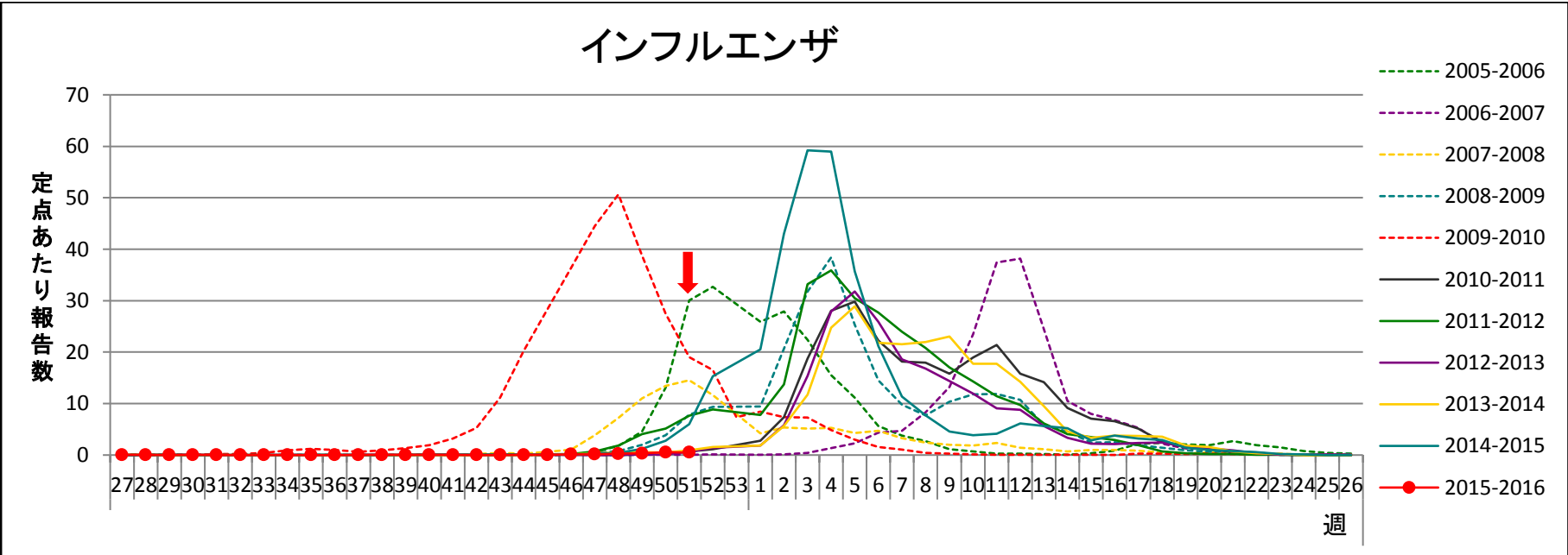
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	7	-	1	1	-	2	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	7	-	5	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

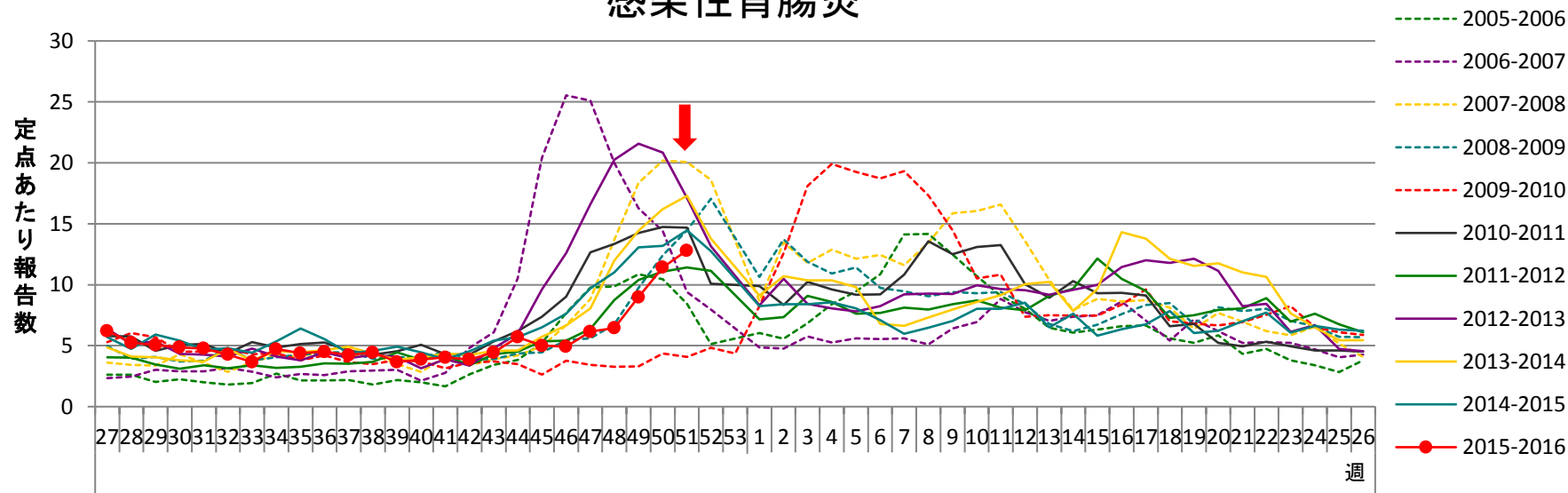
全数把握 感染症患者発生状況

2015 年 51 週

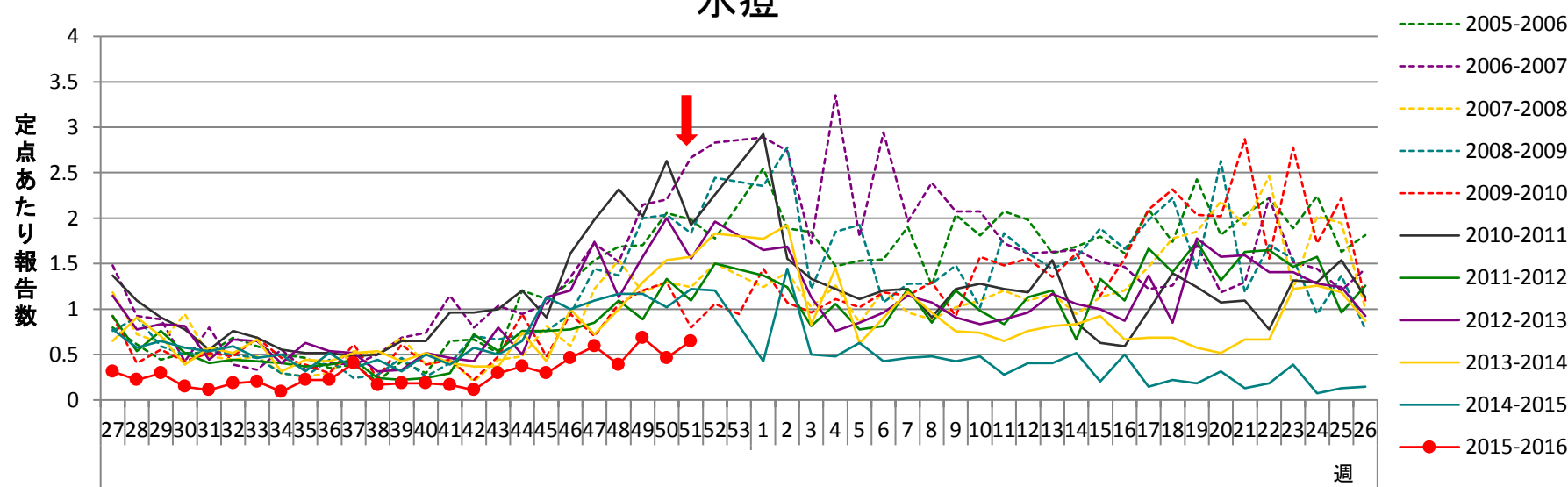
分類	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	2	362	384	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	2	－	腸管出血性大腸菌感染症	－	63	71
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	3	2	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	1	9	8
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	1	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	－	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	2	デング熱	－	1	1
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	2	4	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	2	－	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	26	32	レプトスピラ症	－	－	－
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	17	12	ウイルス性肝炎*3	－	7	7	カルババネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	33	12
	急性脳炎*4	－	13	9	クリプトスポリジウム症	－	1	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	2	3	後天性免疫不全症候群	－	20	19	ジアルジア症	－	4	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	30	27
	水痘(入院例に限る。)	－	6	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	23	21
	播種性クリプトкокクス症	－	1	1	破傷風	－	－	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	2	風しん	－	－	2	麻しん	－	－	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



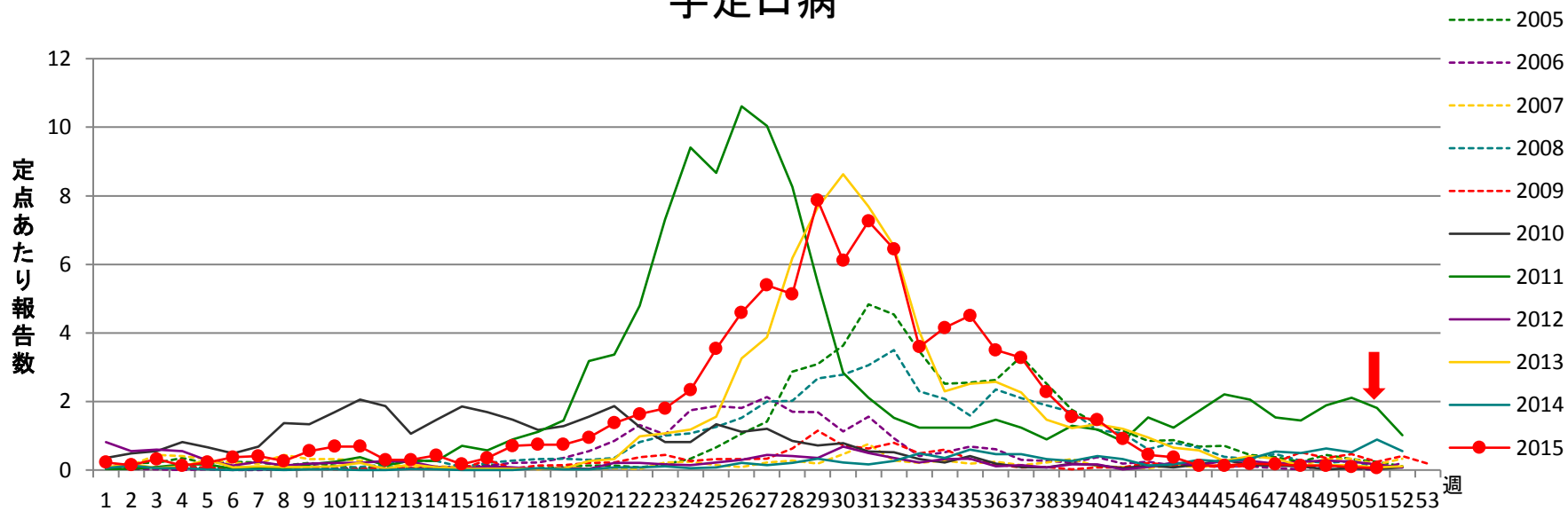
感染性胃腸炎



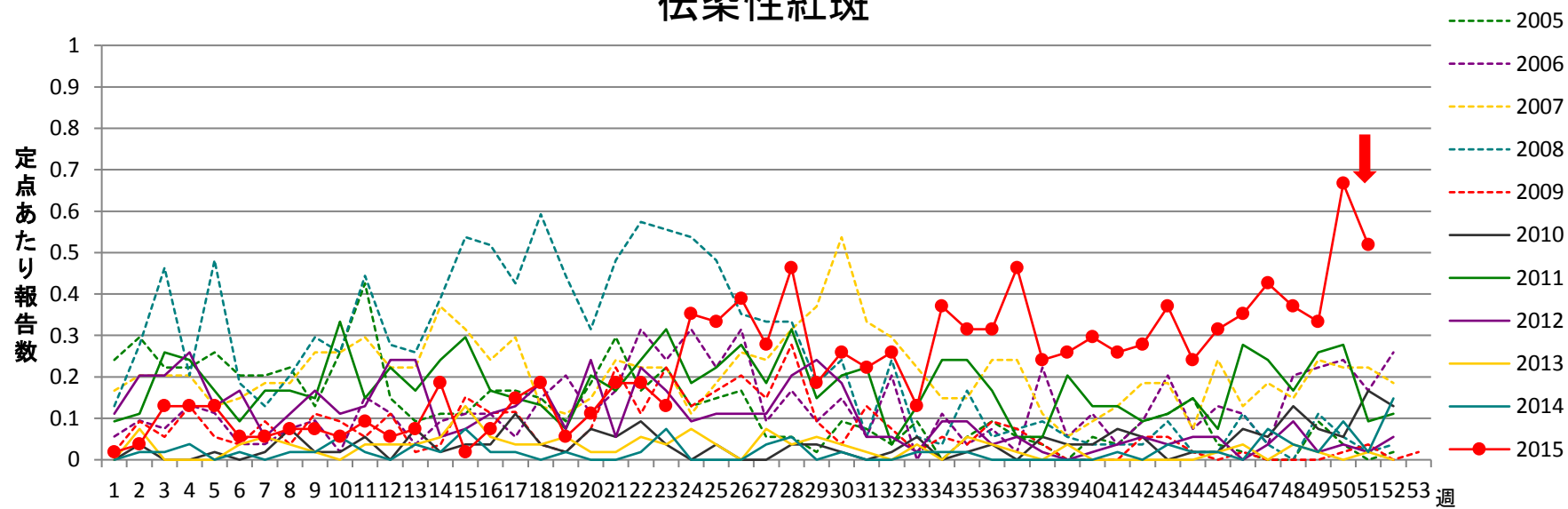
水痘



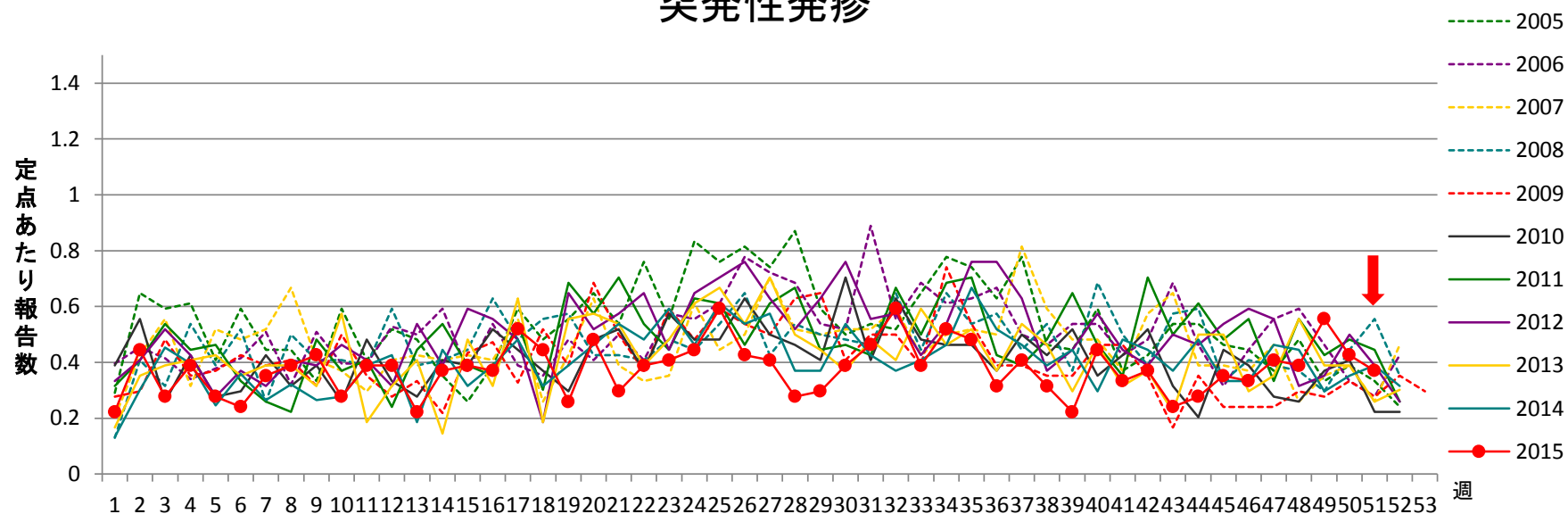
手足口病



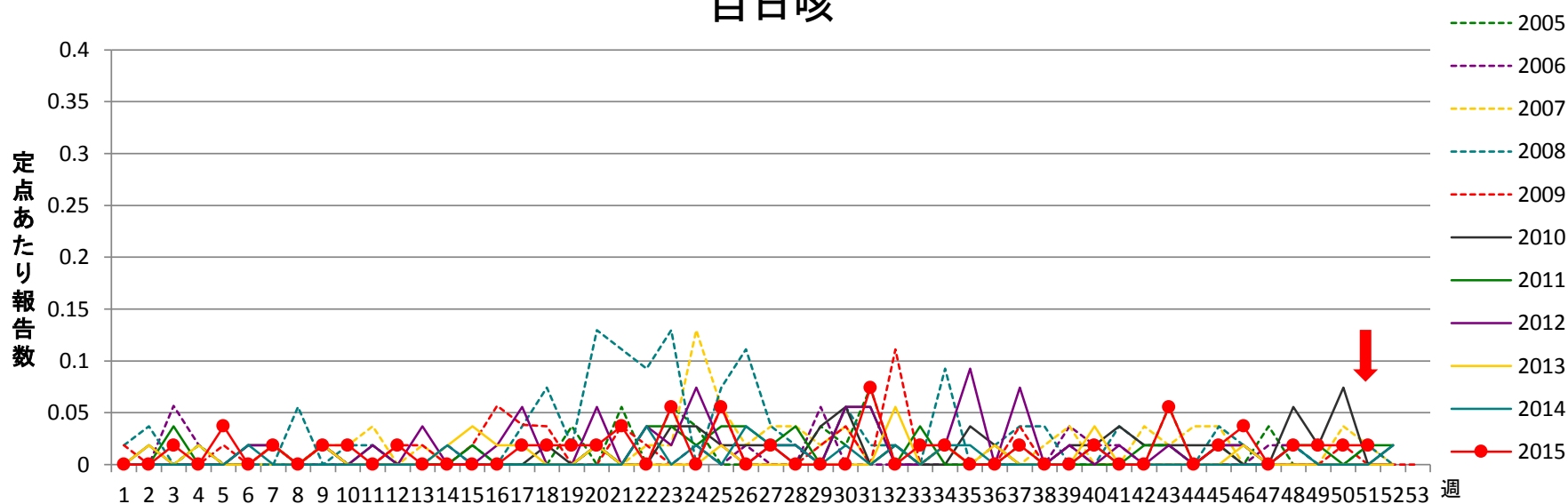
伝染性紅斑



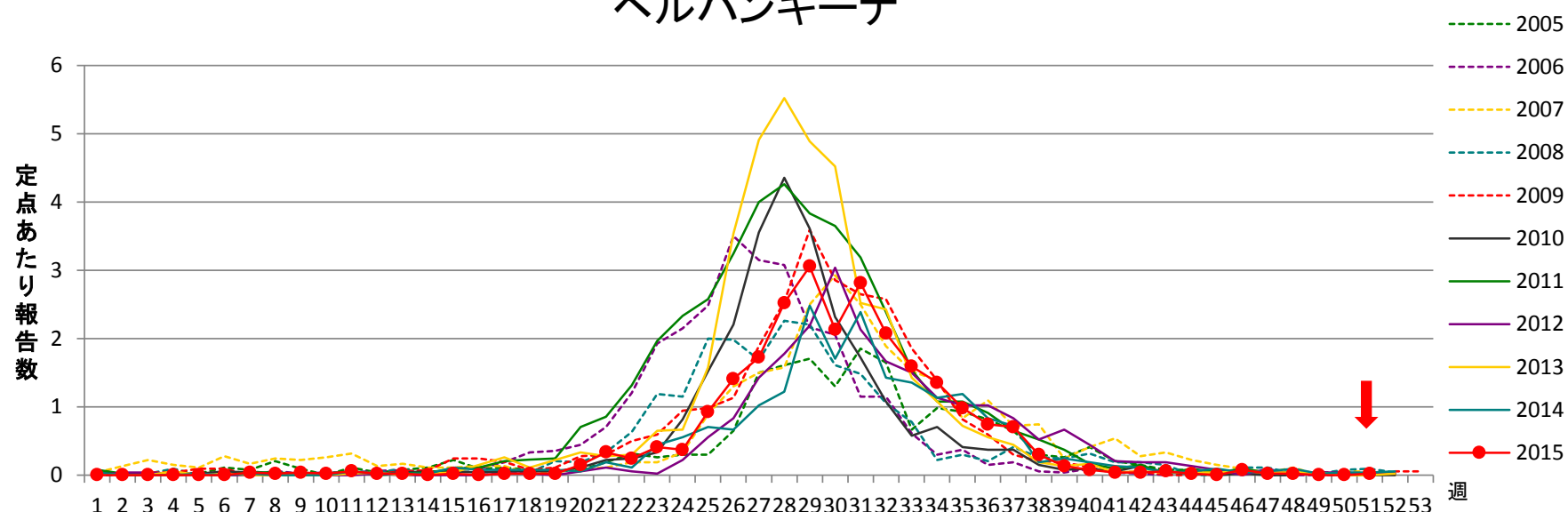
突発性発疹



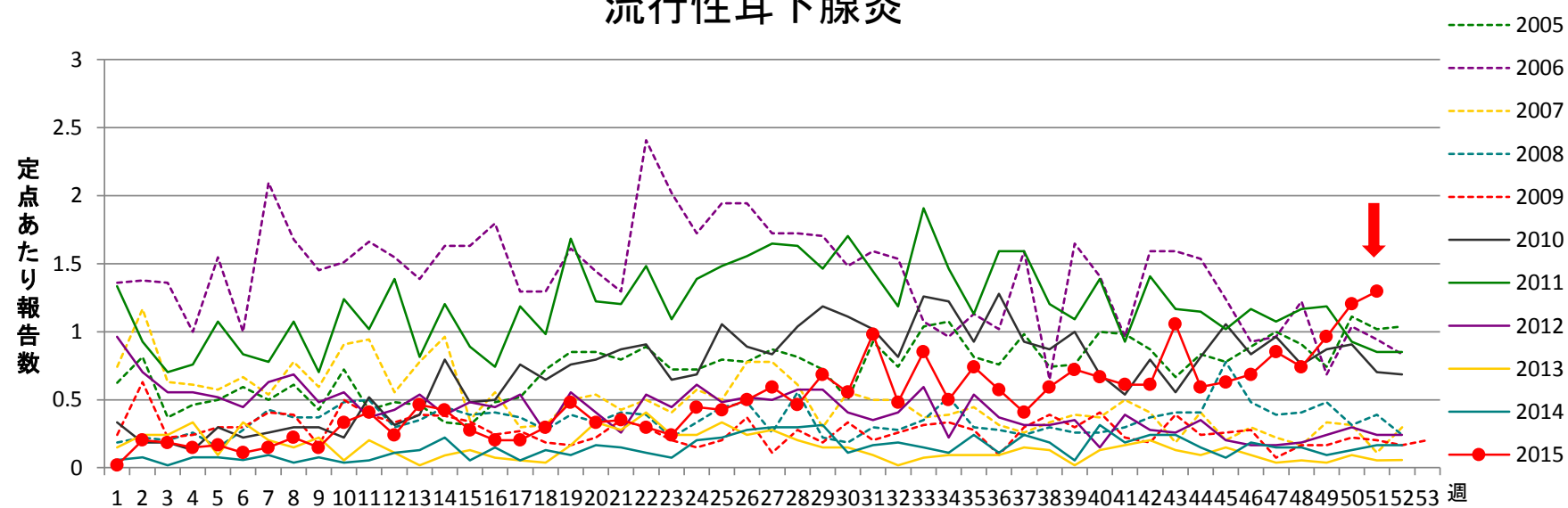
百日咳



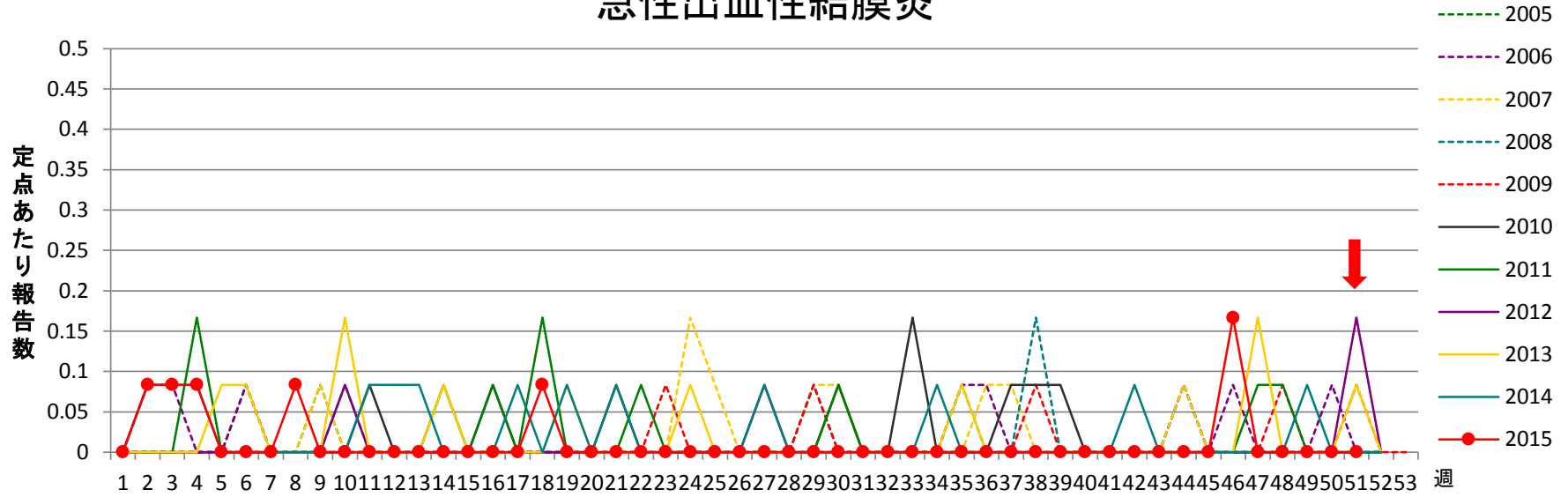
ヘルパンギーナ



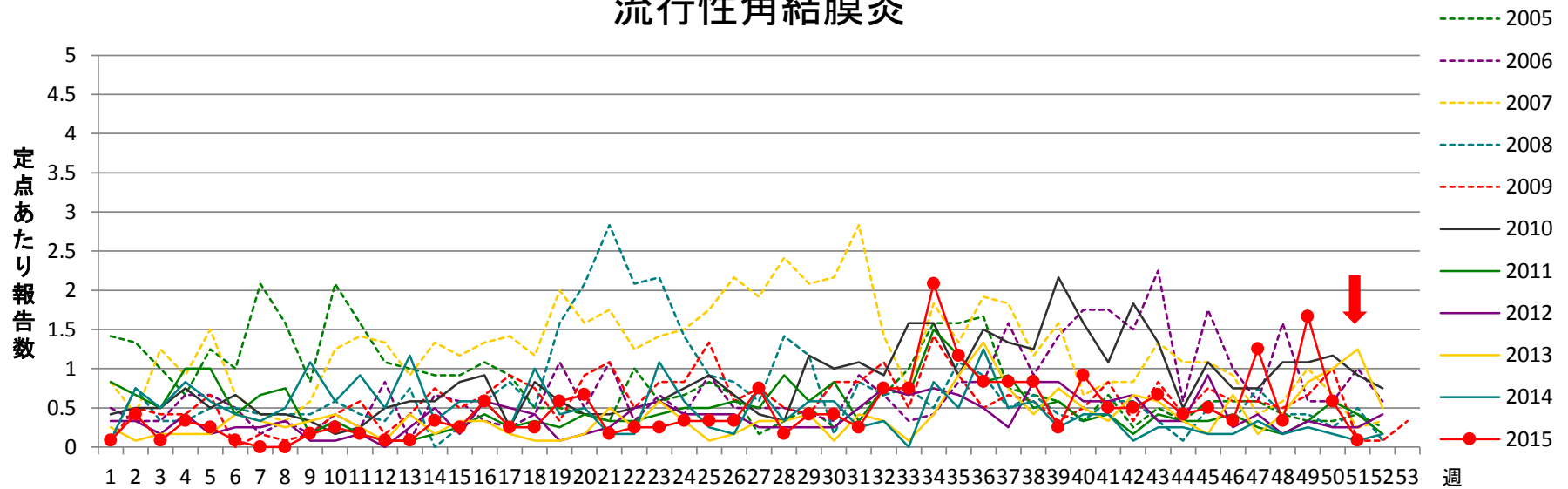
流行性耳下腺炎



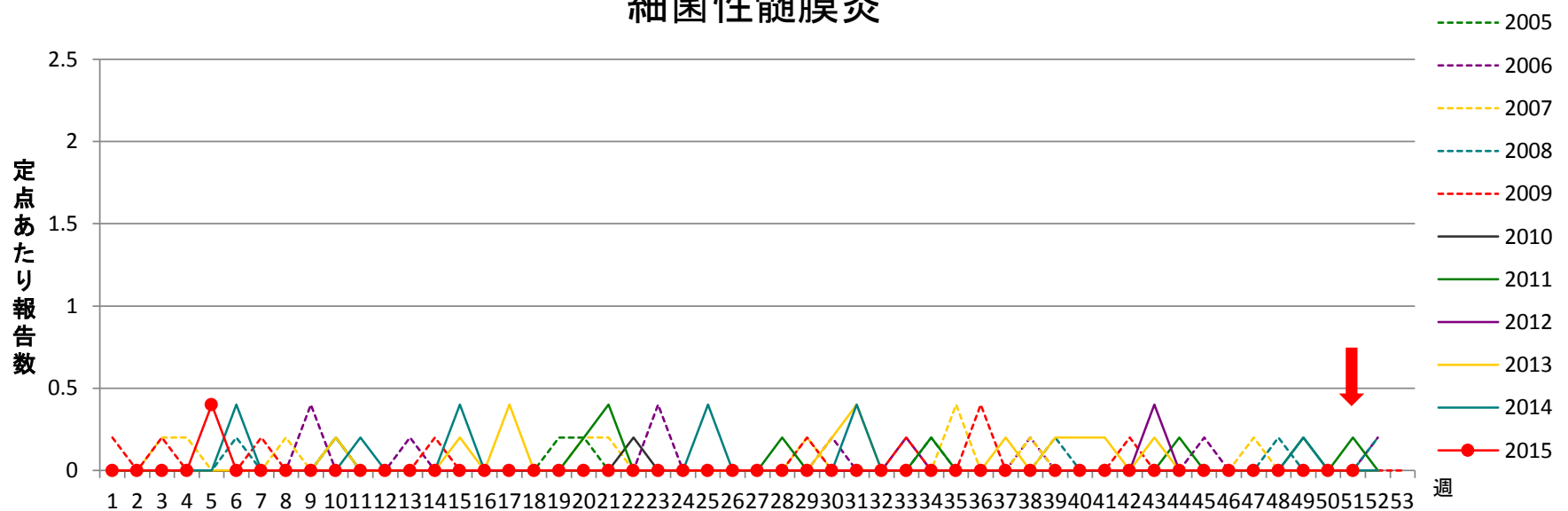
急性出血性結膜炎



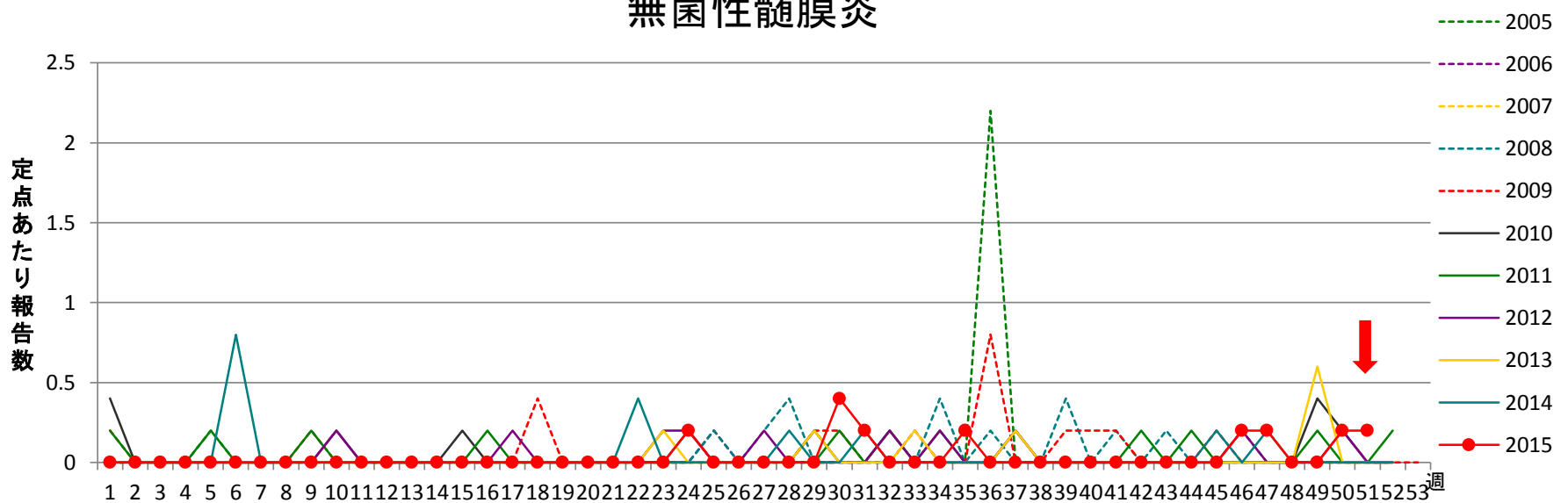
流行性角結膜炎



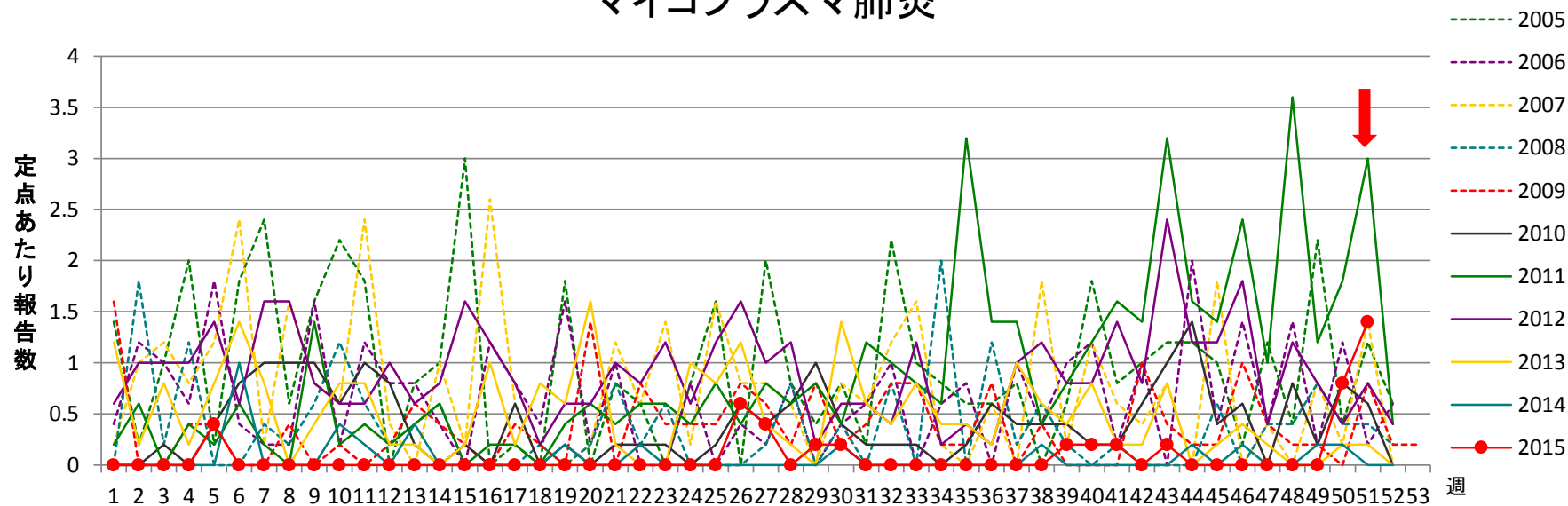
細菌性髓膜炎



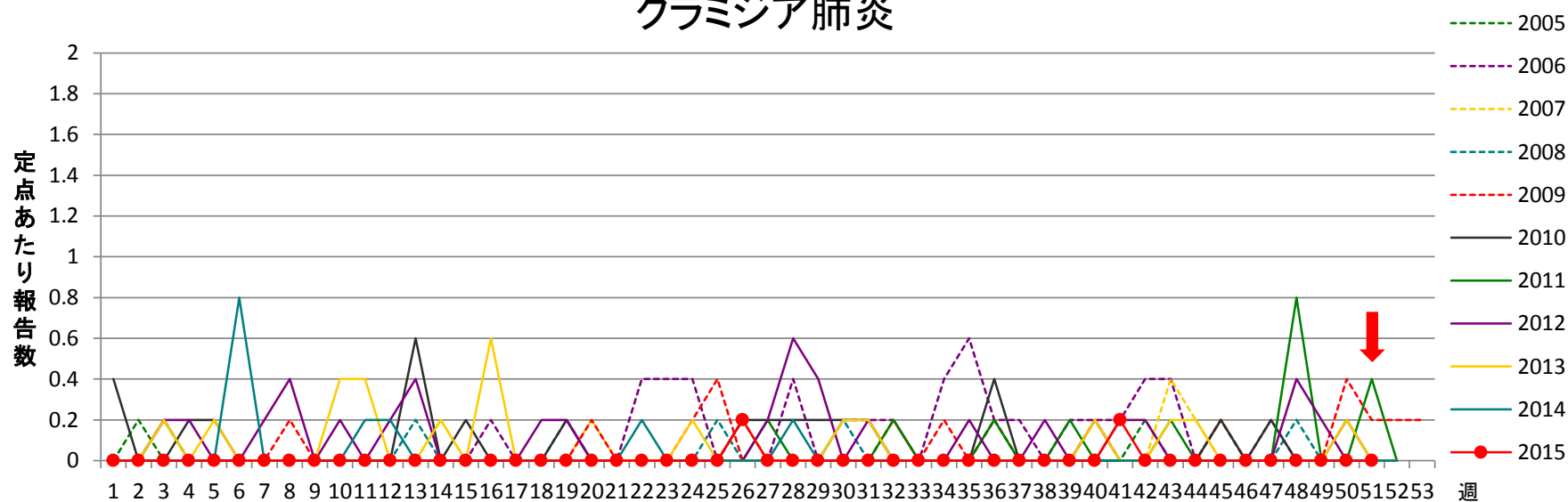
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

